

■■■ 韓国NGOと神奈川すたんどばいみーとの協働事業 ■■■

2016年12月からトヨタ財団より「日韓移民ユースエンパワメントのためのディーセントワーク推進プロジェクト」事業への助成を受け、韓国NGOと神奈川県NP法人外国人支援ネットワークすたんどばいみーとの協働プロジェクトを始めています。

ディーセントワークとは「働きがいのある人間らしい仕事」のことで、権利が保障され、十分な収入を生み出し、適切な社会的保護が与えられる生産的な仕事を意味します。NGOでは、「やりがい」のみが重視され十分な収入や社会保障を得られないことがままあります。震災という緊急時に立ち上がったため仕方がない側面はありますが、KFCも活動を始めた当初から数年はそのような状況でした。現在では、社会保障制度も整備されていますが、今回協働事業を行う韓国NGOやすたんどばいみーは、これから「ディーセントワーク」を推進していくという状況にあります。また「日韓移民ユースエンパワメント」と事業名にある通り、日本側は、ベトナム、中国、ブラジル、日本の若者、韓国側はカンボジア、韓国の青年をインターンとして採用、エンパワメントし、それぞれの団体が自立することと、自立後に各団体にディーセントワークに若者が関わる仕組みを模索していくプロジェクトとなっています。

今回協働事業を行うにあたって、12月には韓国側が日本へ訪問、3月には日本側が韓国へ訪問し、それぞれの国の状況や各団体の活動紹介が行われました。

3月の韓国訪問は、3月18日～21日までの4日間でしたが、深夜早朝の飛行機便だったため実質2日間の滞在となりました。まず初めに、外国人住民に韓国語教室や創業セミナー、ソウル生活オリエンテーションなどの教育プログラム等を行うソウルグローバルセンターの会議室をお借りして、日韓インターンの初顔合わせということでまずは自己紹介を行いました。続いて、延世大学の金賢美教授から「韓国の移住背景を持つ子ども」というテーマで講義をしていただき、「多文化」という言葉が差別的、否定的に捉えられるようになってきている韓国での現状を伺いました。

昼食後は、ベトナムやカンボジアなどの移住民や支援者NGOなどが多く集まっている人種差別撤廃集会を見学しました。午後の前半は、メンターとインターンとに分かれて、メンターは今後の予定の確認やシンポジウムタイトルなどの決定を行い、インターンはソウル見物に出かけました。午後の後半はまたソウルグローバルセンターで合流し、韓国NGOの作成した移民青年たちのDVDとKFCとすたんどばいみーの映像を見ました。

次の日は、PM2.5でひどく曇っている工業地帯の安山市にバスで移動し、安山グローバル青少年センターや京畿道外国人権支援センターの見学をさせていただきました。安山グローバルセンターは2009年に設立され、日本の社会福祉法人のような団体が行政からの委託を受けて運営しています。主に韓国生まれや中途入国の青年たちの就学、進学支援を行っており、韓国語の学習や学校での教科の学習のサポートを行っていました。原則1年の期限付きですが、ここでの授業が安山高校で単位認定されるとのことでした。文化・家族診療治療プログラムも実施しており、友人を作る支援、法律や安全に関する知識の提供、社会参加の支援をしているとのことでした。

同じ建物の中にある京畿道外国人権支援センターは行政機関ではあるものの、性格的にNGO的な部分もある団体で、事業としては、実態調査、移住民当事者や韓国人を対象とした労働権（勤労基準法）やセクハラ予防教育などの教育の実施、市民や学生、公務員対象の市民権教育の実施、雇用許可制で移住労働者を受け入れている雇い主に雇用者教育を実施などがありました。そのあと、1時間ほどバスで富川へ移動し、アジア人権文化連帯の事務所でお話を伺いました。

「活動当初は労災や未払いなどの相談活動が多く、あまりにも同じ相談が多いため、韓国人の認識が変化しないと状況が変わらないということで、市民教育を始めました。平等な社会づくり、生活者として共に地域社会で社会統合できることを理念として活動しています。現在では、幼稚園から成人まで、公務員や教員などを対象とした文化活動を基盤とした教育を行っています。最初は助成金を受けて受講料無料で実施していましたが、現在では学校からの依頼も増え、去年は3校の中学校の社会の時間を受け持たせてもらった」とのことでした。内容としては、市民と人権、労働、学生と人権、多様性（移住民）、マイノリティと平等、性的平等、連帯と人権とこの7つの伝えたいこと全てを盛り込んでいるということでした。

今回の韓国訪問では、韓国と日本の違いをはじめ、マジョリティへの教育の内容など多くの参考になる取り組みを知ることができました。韓国のスタッフの方の非常に細やかな心遣いに感謝し、KFCでの新たな取り組みに繋げることで、またプロジェクトの目標達成に向けて2年間の活動を充実させていきたいと思っています。（志岐 良子）

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆「筆運びで学ぶ たのしい漢字帳 基本漢字148」作成に携わって

昨年度は「筆運びでまなぶ楽しい漢字帳」の作成に参加しました。数千の漢字の中から基本漢字148字を取り上げ、書き順、読み方、成り立ちを知るための象形文字をのせたほか、同じ漢字でも字体により印象が異なることがわかる等、一ページに一文字という大きなスペースで構成しました。（漢字学習ではきっと大いに悩むであろう学習者に、空きスペースにたくさん書き込みをしてもらえることを望んでいます。）

この作成過程で、私たち日本人は、当たり前のように漢字、ひらがな、カタカナが入り混じる活字をすらすら？と読んでいたけれど、これは凄いことなのだ！と気づきました。

私が小学生のとき（もう40年も前！）学校では毎週「書き方」の時間があったと記憶しています。学年が上がると「習字」「書道」の時間になり、高校になると芸術科目として「音楽・美術・書道」の中から一つ選択して受講する……。宿題は毎日のように漢字ドリル、夏休みは毎日毎日百字帳1ページ、はては漢字検定試験の受験をすすめられるなど、国語の授業時間とは別枠で常に「字を書く」ことが課せられていましたが、外国でもこのような時間は設けられているのかしら？

テキストを活用してもらいながら、そんな話題も学習者さんと話したいなあと思っています。（岡本 道代）

私は今回の漢字帳作成に参加させていただきました。しかし私自身は漢字嫌いで字も下手で漢字の書き順や細かい所は適当に書く、そんな人でした。そんな私が今回これに参加してみようと思ったのは漢字以外の部分で協力できることがあるかもしれないと自分自身が苦手だからこそ得るものがあるかもしれないと考えることができたからではないかと思います。

案の定、漢字帳作成では殆ど役に立つことはできませんでしたが、他の部分で企画を出してみました。漢字カフェで背中に指で「漢字」を書いて伝える「伝言ゲーム」のようなことを考えてみたり、「書初め」の前に1ヶ月ほど学習者が教室で「好きな漢字」を紹介する企画をたてたりしました。成果はよくわかりませんが、漢字の指導でない、学習者同志が漢字に対する興味や関心を楽しみながら高め合ってくれればと考えたのです。学生の頃、先生の言葉より、友達の何気ない話の方が自分を学習へと向かわせてくれた、遠い昔の記憶からの思いつきでしたが、とにかく楽しんで学んでくれているように思えたことが何度かあって嬉しく思ったりしました。これからも自分にできることを探しながら自分なりに学習支援に協力していければと思います。（伊川 輝

義)

◆地域日本語教室を考える2017

2017年2月18日(土)に「地域日本語教室を考える2017」を(公財)神戸国際協力交流センター(KIC)の会議室で行いました。地域の日本語教室で学習している方2名、支援している方4名からお話ししてもらいました。次にKICの小林真由美運営課長から神戸市の外国人についての話があり、ボランティアの日本語教室の場所を示す大地図も作成して頂きました。一目見て教室がどこにあるかがわかります。この地図はKICCの学習場所の壁に貼ってあるということです。今回の参加者は発表者を入れて32名で、後半は4、5名のグループに分かれて話し合いを兼ねた交流会を行いました。テーマは「活動して、困った事、うれしかった事、言いたい事」です。「困った事」では、「文化交流においてお互いの理解が難しい」「教室の場所の確保が大変」「ボランティアの高齢化」「日本語初級の学習者との初めのコミュニケーションの仕方」「誤りを指摘するタイミングが難しい時がある」など。「うれしかった事」では、「色々な出会いがある」「目に見える達成感がある」「お互いの文化を知り合えた」という意見が出ました。「言いたい事」では、「日本語学習をする上での、最適な本の指導をしてほしい」「公的な場所での学習の場所がほしい」「日本語学習に対する国や自治体の補助制度や施策をもっと整備してほしい」「学習指導するための日本語学習に学校がもっと力を入れてほしい」「学習者の就職に繋がる日本語学習も必要ではないか」「無償での学習が、無断欠席などの学習に繋がるのではないか」など、一生懸命相手のことを思って支援活動しているからこそ出てくる辛口の意見が多くありました。複数のボランティア教室の支援者同士がお互いの状況を知り、共通点や違う点を分かち合い交流するいい機会になりました。(奥 優伽子)

■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆こうべプレススクールを終えて

2017年1月7日から3月18日までの3ヶ月間、土曜日にプレススクールを実施しました。プレススクールは、外国にルーツをもつ子どもが、日本の学校に戸惑うことなくスムーズに、学校生活に適應できることを目指し、ひらがなや数字の習得、学習活動や絵本の読み聞かせを通して日本語の語彙数を増やしたり、また学校で使用する道具の名前や学校での使用言語を学習します。今年はベトナム、中国をルーツに持つ5人の子どもたちが通ってきました。来日の時期こそ違っていたものの、5人とも来日間もない子どもたちで、日本語がまだよくわからず、指導者の話す内容を理解することが難しい状況でした。子どもたちが4月に迎える新学期に向けて、あいさつ、友達とのコミュニケーションの言葉、新しいクラスの友達に自己紹介ができることを目標に、楽しく学びながら言語習得ができるように、歌や体を動かす活動や着席してする活動など、「静と動」の活動を組み合わせた学習活動を心がけました。最初は小さかった発音練習の声もだんだんと大きくなり、プレススクールの後半には、挙手をして積極的に自信を持って発表し答え、わかることが増えてきたことを子どもたちはとても楽しんでいました。ひらがなを書く学習では、鉛筆を初めてもつ子どももいましたが、慣れてくると書くことに興味を持ち、集中して丁寧に取り組んでいました。プレススクールの回が進むにつれ、増えていく学習プリントを綴じた「水色のファイル」を見て、「絵本だ!」「本だ!」と表現した子どもたちがいました。この「水色のファイル」にはまさに子どもたちの頑張りが詰まっています。子どもたちは90分間という長い時間、本当にしっかりと学習に取り組みました。指導者として彼ら彼女のその頑張りをととても誇らしく思っていま

す。子どもたちがそれぞれの学校生活の場で、その頑張りを発揮してくれることを願っています。最後になりましたが、プレスクールへのご理解とご協力を頂いた保護者の皆さま、支援者の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。(河藤 一美)

◆高校進学状況

この4月にまた高校生8人が誕生しました。今回は、公立高校へ4人(葺合、国際、須磨翔風、兵庫工業)、私立へ4人(神戸国際大学付属、野田、常盤2)進学することになりました。

先日、進学した数名の高校生たちが真新しい制服で訪れ、楽しく学校生活を送っていること、後輩に「私らみたいに勉強頑張らんかったら絶対後悔するで」という話を早速してくれました。高校では、楽しくかつ勉強にも取り組んでくれるかなと淡い期待を持ちました。がんばれ新高校生!(志岐 良子)

■■■ 八ナの会 ■■■

◆2017年の花見

今年も桜の季節となりました。恒例行事の花見、天候不順もあり桜も遅れ、当日の昼に天気と相談しながら決行しました。

まずベトナムデイの花見を4月6日(木)に行いました。6部咲きでしたが、ポカポカしたいいい天気でした。午後から妙法寺川の桜並木を全員で権現宮澄誠神社までフルコースを歩きました。その後おやつタイムで温かい飲み物とお菓子、ベトナムの歌も歌い盛り上がりしました。4月10日、14日は八ナの会の花見です。10日(月)は午後2時に出発して妙法寺川の桜並木道、車イスと歩行でゆっくり回り、桜が8分咲きの曇り空、穏やかで過ごしやすく、桜が綺麗に誇らしげに咲いて見えました。みんなで一緒に写真を沢山撮りました。ハルモニたちは、「綺麗だ、今日、来て本当に良かった、有り難う」と口々に言われました。おやつ時間に温かいお茶、カフェ、ジュースにお菓子を用意していただきましたので、しばし休憩、団欒の中、歌(アリラン、トラジ)を歌いました。14日は、雨の影響もあり桜が散りかけていましたが、まだ見栄えがありました。ハルモニのなかには、桜よりドングリ拾いに夢中になっている方もおられました。妙法寺川の桜は有名なので、お弁当を広げている方も沢山いました。楽しい時間は、あっという間に過ぎました。2018年も桜が見られることを願い、八ナの会へ戻りました。今後もハルモニたちが喜んでくれるイベントを考えたいと思います。

(竹宮 章子)

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆農業体験

農業というのは、農作物や野菜等を春に植え、夏に生長し、秋に収穫して、冬に貯蔵するというイメージが頭に浮かんできます。

今は、特に季節は関係ないので、冬に野菜を植えることも出来るようになりました。

KFC日本語教室は、帰国者の楽しい豊かな生活を送る為に、軽い農作業体験ができる企画をし、金理事長をはじめとして担当の呼和さんにお世話していただき、毎回参加することができます。

昨年11月のKFC日本語教室の農業体験で、大根と玉ねぎを植えました。やはり、神戸の冬の気

候は穏やかで、0度以下になることが殆どなく、冬の間も野菜を植えることが出来ます。種を植える時に、赤色や青色の種を初めて見て不思議に思いました。なぜ、いろいろな色の種があるのかと、ベテランの陳さんに聞いてみると、防虫のために種に色をつけているのだと教えてもらいました。私は初めて知り、なるほどと納得しました。そして、夏の農業体験では、オクラの実になる木も初めて見ました。

帰国者たちは、ほとんどが60代、70代の年配方ですが、できる限りのお手伝いをさせてもらったことに喜びを感じました。K F C日本語教室は、日本語を勉強する以外に農業の活動があります。そのお陰で私にとって農業知識が広くなり、とても勉強になりました。楽しい体験をさせて頂き感謝しています。（今江 ゆか子）

■ ■ ■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ ■ ■ ■

◆ハナの施設長に就任して

今年4月から、小規模多機能型居宅介護ハナとグループホームハナの2代目施設長に就任しました。初代は、リーダーシップがあり、パワフルで多才な山根さんです。その後任ということで、非常にプレッシャーを感じますが、大好きな高齢者に関わる仕事を続けていられることと、多国籍な面白さ（もちろん、大変さもありますが）を感じられることに幸せを感じています。

思えば、K F Cとは不思議なご縁です。元々、大阪の人間ですので、神戸で仕事をして住むなんて思いもしませんでしたし、K F Cの存在自体知りませんでした。就職のきっかけは、海外での経験と日本語教師に興味を持ったことでした。

5年前に大阪の特養を退職した私は、インドとネパールにあるマザーテレサの施設にボランティアに行きました。学生の頃からマザーテレサが好きで、一度は行ってみたいと思っていました。コルカタ(インド)のマザーの施設には、世界中から人が集まっていて、日本人もたくさんボランティアとして参加していました。私は、インドに1週間、ネパールで1ヶ月近くホームステイをしながらマザーの施設に通いました。多国籍の中、共通語は英語です。英語があまりできなかった私は、コミュニケーションに苦労しました。そんな中、インドでの活動中に、あるアメリカ人女性とバスで隣同士になりました。一生懸命に英語で話しかけてくれるのに、内容が理解できず申し訳なくて謝ったら、「気にすることは無い。私も日本語が話せないんだから」とにっこりしてくれました。そこで、肩の力が抜けて、そこからは、カタコトでも何とか話そうとし、その女性も一生懸命聞いてくれて、憂鬱な道中がとても楽しかったことを覚えています。それから、劇的に英語が上達したり、社交的になったわけでもないですが、言葉がうまくできなくても、相手の言う事を理解しよう、こちらの思っていることを表情や身振り手振りでもいいので伝えようと努力をしてみました。もちろん、ボランティア活動や、家でのお手伝いも私なりに一生懸命しました。そうする中で、活動仲間やステイ先の家族とも距離が近づいていった気がします。言葉がうまく通じ合わなくても、人と人は深いところで共鳴したり、気持ちは伝わるんだと感じられた体験でした。短期間でしたが、海外で過ごした経験は今に生きているように思います。言葉が通じない不安な気持ちや、その時に理解しようとしてくれた人たちがいてくれた嬉しさは忘れられません。帰国後しばらくしてから、日本語教育に興味を持ち勉強を始めました。最初は、E P Aの看護師・介護士候補生に日本語を教えられたらと思っていましたが、日本語学習支援をしているN P Oがケアマネージャーを募集していると知り応募、K F Cに入職して現在に至ります。

高齢者福祉の現場に戻り、やはり好きだなと改めて感じますし、ハナは普通の日本の職場にはない面白さに溢れています。以前勤務をしていた施設は、日本人ばかりの職場で（今から考えれば、外国にルーツをもつ職員もいたと思います）、職員同士も年代が近ければ、あうんの呼吸で伝わる部分がありました。また、在日コリアンの利用者や中国の利用者がいましたが、その家族

も含めて、ある程度日本語が通じたため、対応に苦慮することはあまりなく、他の利用者や家族と区別することなく接していました。背景やその利用者が歩んできた歴史など、細かいことを知らなかったゆえかもしれません。それが、KFCでは外国にルーツを持つ利用者だけでなく職員も多国籍です。言葉が通じにくいということも含めて、物の見方や感じ方の違い、表現の仕方の違い等、日々、「違い」というものをひしひしと感じます。ハートの部分では、お互いに通じ合えるものを持っていたとしても、表面的には摩擦（喧嘩）となつて勃発することもあります。以前の職場の方が、摩擦は少なかったかもしれませんが、外国にルーツを持つ職員や利用者にとって、本当の意味で居場所と感じられていたのかといえば、違うような気がしています。摩擦や葛藤は、しんどさもありますが、お互いをより理解し合える機会であつて決してマイナスのことばかりではないと最近は感じています。理解しあおうとし、その違いも楽しめたなら、国籍や様々な背景を超えて本当の仲間作りが行えるのではないかと考えています。

日本は、世界に例の無いスピードで高齢化が進み、同時に少子化も深刻です。高齢者は増えても、それを支える層が減少しているので、どのように、これからの高齢社会を支えるか日本中で議論されています。そんな中、外国人介護士・看護師に寄せられる期待も大きくなっています。実際、外国人介護士が日本の施設で仕事をしていますが、日本人の中にごく少数の外国人というのが実情ではないかと思えます。KFCのように、外国人職員が多く、働く環境としての下地ができている団体・施設はどれだけあるでしょうか？日々のKFCやハナでの取り組みは、今後の日本の高齢者福祉の一つの指標になると思えますし、一歩先を行っているのだろうと感じています。

しかし、他方、ケアの質の部分は、まだこれから作り上げていく必要があると思っています。多文化共生ではあっても、日本の高齢者福祉の現場であることに変わりはありません。まずは、ハナらしいケアの基本を整え、日本人職員・外国人職員に関わらず、同じ観点からケアが行え、新しく入った職員にも指導していけるようなシステムを作っていきたいと思えますし、それが、施設長1年目の大きな目標です。それと並行して、外国人介護職員への日本語教育も行っていきたいと思えます。

今は、まだいっぱいいっぱいな私ですが、日々、金理事長、山根前施設長をはじめ、KFC本部の皆様、ご家族様、そして、何より、ハナの職員みなさんに支えられていられることに、とても感謝しています。ありがとうございます。そして、これからもよろしく願います。（森佳緒里）

■■■ 今後の予定 ■■■

■ 2017年度総会・学習会

2017年5月27日（土）

17:45～18:45

学習会「外国につながる幼児のルーツ表出の様相」

宮脇 英理（KFCジュニアコーディネーター、NPO法人外国人支援ネットワークすたんどばいみー副理事長）

18:45～19:45 総会

■ KFC帰国者新長田交流会

5月21日(日) 神戸まつり出演

5月23日(火) 農業体験

■多文化子ども共育センター

5月27日(土) 13:30~17:00新長田フィールドワーク